



園内でのいちご狩り(ブレーグあしたか小規模多機能居宅と託児所ぼっぼ)

ハチドリになろう

法人理事 鈴木 好晴

南米アンデス地方には、世界最小の鳥ハチドリに因んだ「ハチドリのひとしずく」という民話があります。森が燃えていました。森の生き物たちは、われ先にと逃げていきました。でもクリキンディという名のハチドリだけは、行ったり来たり口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。動物たちはそれを見て「そんなことをしていいたい何になるんだ」と笑います。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」

職場や地域という小さな世界の中に置き換えても似たような状況はイメージできます。こうした問題に直面した時、多くの人は「自分に問題を解決する力なんて無い」とか「そんな事をして何になるんだろう」と目をつぶり、逃避しがちです。他人を非難せず、自分のできることをまずやることは重要ですが、簡単なことではありません。

もう一方で、ほかの動物たちが火事を消そうともしせずに逃げてしまったのは、責められない理由があったかもしれません。

私たち一人ひとりはいさなハチドリの力に過ぎないかもしれませんが、無力感やあきらめを払拭し、「わたしにできること」について考え行動し、それらを積み重ねてゆくことができるとしたら、燃えている「森の火」を消す力にだってなれるかもしれません。ハチドリの行為にいくつかの生き物が心を動かされ戻って来て、それぞれができることに取り組んでくれるかもしれません。

職場や地域の中で、クリキンディが一人、二人と増えていくことを願ってやみません。

「森の火事」は何を比喻しているでしょうか。世の中に存在する、貧困や差別など大きな問題だけでなく、

令和3年度
社会福祉法人春風会 新規採用職員辞令交付式

新たな仲間たちを迎えて

春風会では、令和三年四月一日、今年四月採用の新規職員の辞令交付式を行いました。今年度の同日付け新規採用職員は学卒者十一名、中途採用者二名の計十三名です。

式では全員に辞令交付が行われ、新規採用職員を代表し、原デイサービスセンター介護士として勤務する中川謙さんが代表挨拶を述べ、沼津市立高尾園の深沢施設長による園訓唱和、石川理事長からの訓示が行われました。



新規採用された 皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長
石川 三義



皆さんはこれから福祉の仕事に従事する社会福祉法人の職員となります。私たちの福祉・医療・介護・保育の仕事はエッセンシャルワークであり、日常生活を営む上において必要不可欠な仕事と考えられています。いま福祉・介護・保育の仕事が見直され、高い評価を得ています。福祉の仕事は、人の生命・生活をお預かりし、それを支える神聖な仕事です。この仕事は人に誇れる素晴らしい価値のある仕事であり、また、社会的に見ても大切な仕事になります。

皆さんはこれからの人生において、様々な困難に当たることもあります。その時に、常に人の意見を聞く素直さと謙虚さを持つて下さい。そして信念を貫くぶれない精神力を持ち、仕事に取り組んでください。

皆さんが五年後、十年後に福祉人として活躍できることを期待しております。

新規採用職員 代表あいさつ

原デイサービスセンター 介護士
中川 謙



本日より私たちは春風会の一員として働く事となりました。四十年以上の歴史を持つこの法人の下で働かせていただくことを深く感謝すると共に、その重みと責任と誇りに身が引き締まる思いです。私たちは学校を卒業し、社会に足を踏み入れたばかりの未熟者です。皆様の足を引っ張ることなく、一日でも早く皆様と共に働ける立派な職員になれるよう精進してまいります。

私の個人目標として、私は利用者の皆様に頼られ信頼される立派な介護士を目指します。

研修で学んだことを何度も復習し、春風会が用意してくれたトレーナー制度等を生かし、独りよがりになり抱え込まず相談し、皆様と共に高みを目指して行きたいと思っています。

	福祉・春風会を選んだ理由	採用前の事前集合研修について	入社してから感想
 <p>はら通所介護 中川 謙</p>	<p>新型コロナウイルスによる影響により夢を閉ざされ、途方に暮れていたとき、企業説明会で春風会と出会いそこで自身と同じ外国語学部の人たちが活躍していることを知り、教育制度の充実さを感じたから。</p>	<p>春風会の様々な施設から多くの職員が講師となり、春風会はどこなところか、介護とは何か、こんな時どうするかなどを丁寧に教育してくれたおかげで介護事業の奥深さを知ることが出来た。</p>	<p>先輩の方々がやさしく、丁寧にお手本を見せてくれるだけでなく細かなところも指導してくれるため介護初心者である自身でも覚えやすい環境で満足しています。</p>
 <p>あしたかホーム特養 岡田 善貴</p>	<p>介護の知識がない頃に祖父の介助の手伝いを行い上手く介助が出来なかったが、祖父が利用しているデイサービスの職員が簡単そうに介助を行っているのを見て、自分もこんな風に介助できるようになりたいと思い福祉の道を選びました。</p>	<p>社会人として働く上でのマナーや心構えを学ぶことができ、その他にも実際に利用者体験を行い一つ一つの介助を丁寧に行う重要性など介護の基礎を改めて学ぶことが出来ました。</p>	<p>利用者の方によっては指示が通りにくい人や、麻痺がある、介助に拒否がある人など様々な人がいるため介助は難しいですが、困っていれば先輩職員の方たちが介助のコツなども教えてくださり、少しずつ現場にも慣れてくることが出来ました。</p>
 <p>あしたかホーム特養 安中 慎之介</p>	<p>高校生の介護実習で、あしたかホームに来させて頂き、職員の方々が笑顔でお仕事されているのがとても印象に残り、この施設で働きたいと強く思った為春風会を希望しました。</p>	<p>事前研修では様々な職種の先輩職員の方々に社会人としてのマナーやルール、専門的な介護技術を教えて頂き、社会人としての自覚を感じたとともに、技術面での不安が和らぎました。</p>	<p>毎日新しいことを先輩職員の方々に教えて頂き、日に日に自分の行える仕事が増えていくことは嬉しく、充実感があります。今後は今以上に責任感をもって仕事に取り組みたいです。</p>
 <p>あしたかホーム特養 鈴木 麗亜羅</p>	<p>昔から高齢者の方と話すことが好きで高齢者の役に立ちたいと思ったからです。高校生の時、春風会をいろいろな先生から推されたので私も働きたいと思いました。</p>	<p>私は他の動機とは違い、介護の経験が一切ないので不安でしたが、事前研修があったので働く前に少しでも介護の知識を身につけることができたので安心できました。</p>	<p>最初は介護の経験がなかったので、何から始めていいのかわからなかったが、先輩方が優しく丁寧に教えて下さったので今では毎日楽しく仕事できています。大変ですがこれからも一生懸命頑張っていきます。</p>
 <p>あしたかホーム特養 佐々木 彩花</p>	<p>小学校の頃に祖父が病気で亡くなってしまい、亡くなる前に少しでも身の回りの手伝いをしました。体調は良くなり死ななりましたが、他の方にも同じように支えていきたいと思い、この仕事を選びました。</p>	<p>研修を受けて全然わからないことばかりで不安でしたが、着脱の仕方、パット交換など丁寧に教えて頂き勉強になりました。</p>	<p>利用者や職員の方とのコミュニケーションがうまくとれるか不安でいっぱいでしたが、今では職員、利用者が明るく声をかけてくれて、自分からも話やすくなりました。初めての福祉の仕事で何一つわからないままですが、先輩職員が丁寧に教えて下さり、その期待に応えられるよう、がんばっていききたいと思います。</p>
 <p>プレグあしたか特養 田中 かりん</p>	<p>学校や知人から勧められたことや、とても身近な施設だったので春風会にしました。</p>	<p>資料や動画実践等があった為、とても分かりやすく、いろいろなことが知れたのでとても為になりました。</p>	<p>職員の皆さんが沢山フォローやアドバイスを下さるのでとても楽しく働いています。</p>

福祉・春風会を選んだ理由	採用前の事前集合研修について	入社してから感想
 <p>伊豆中央ケアセンター短期入所 山口 彩花</p>	<p>地元にお年寄りの方が多く、小さいころから関わっていたためお年寄りが大好きだからです。ケアセンターで実習させて頂き雰囲気が良く、尊敬できる介護士の方がいたことで働きたいと思いました。</p>	<p>ショートステイに配属され、毎日、利用者が変わる為なかなか一人ひとりと深くかかわることが難しいと感じます。ですが、多くの利用者様と関わることが出来るのでごく楽しく働いています。</p>
 <p>伊豆中央ケアセンター特養 小柳 結菜</p>	<p>私は、中学1年生の頃に曾祖父が亡くなったことから介護を選びました。春風会はこの施設よりも利用者様と信頼関係が築けて雰囲気も良かったので春風会を選びました。</p>	<p>最初は毎日が不安でしたが今では毎日楽しく働くことが出来ています。まだこれからも覚えることは多くありますが、色々な事を経験し、立派に一人前になれるように頑張ります。</p>
 <p>みはるの丘浮島特養 鈴木 萌花</p>	<p>母親と祖母が介護の仕事をしており、昔から福祉の仕事が身近だったからです。春風会を選んだ理由は実習施設が春風会の施設で、楽しく実習を行うことが出来たからです。</p>	<p>ご迷惑をお掛けしていますがトレーナーの先輩を始め、上司や先輩方が沢山声をかけて下さり、出来ない事や分からない事は一つずつ丁寧に教えて下さります。</p>
 <p>もくせい苑 金子 瑞季</p>	<p>私が、春風会を希望した理由は、コロナ禍で施設見学が出来ない状況の中で、唯一、春風会が受入れをして下さいました。見学では、利用者の方々と職員の皆さんの雰囲気や信頼関係が構築していると感じ、この様な職場で働きたいと思いました。</p>	<p>入社してからは、利用者の方々がどんな作業が出来るのか、また、仕事の準備など覚えることが沢山あり大変ですが、利用者の方々が出来ることを発見すると嬉しいので充実した毎日を過ごしています。</p>
 <p>あまぎ認定こども園 相原 瑠那</p>	<p>高校生の時の介護実習や就職活動中の施設見学の際に、明るい挨拶や笑顔溢れる現場、職員、利用者全員が共に楽しんでいる雰囲気に憧れて選びました。</p>	<p>毎日子ども達の成長に驚かされたり癒されたりしながら楽しんでいます。先輩方も優しく分かりやすく教えて下さるので、分からないことは進んで聞き、学んでいきたいです。</p>



こども園の入園式に想う



なかいず認定こども園

ようこそ

あまぎ認定こども園



令和3年度なかいず認定こども園には、0歳児が9名、1歳児が4名、2歳児が4名、3歳児が5名、4歳児が1名、合計23名の入園児がありました。

こども園での生活は、子どもたちにとってこれから始まる集団生活のスタートともいえますが、その始まり方は、このように園児一人ひとり本当に様々です。

家族以外の人との共同生活を、如何にして豊かな時間にしていくのか。このスタートで躓いたがために、集団生活を苦手とする大人へと成長していかないか。

こども園の役割が大きいと感じる瞬間です。



4月6日、暖かな春の日差しの中、あまぎ認定こども園の入園式が行われました。

今年はひよこ組（0歳児）2人、あひる組（1歳児）2人、りす組（2歳児）2人、うさぎ組（3歳児）7人、ぞう組（5歳児）1人の計14人が新しくこども園の仲間に加わりました。

入園してしばらくは、ママと離れるのが嫌で大きな声で泣いていた子ども達も、今ではすっかり慣れ、毎日楽しく登園しています。

沼津市立高尾園

「沼津市立高尾園（救護施設）」では、施設を退所して居宅生活に移ることを希望される利用者を対象に、アパート等を利用し社会生活力を習得するための訓練を行っています。この事業は今年度で三年目を迎え、在宅生活の前段階として、「金銭・薬・調理・買物・体調・電話連絡等」を中心に自己決定・自己管理による生活を一年間行うものです。今年度の参加者は、男性二名と女性一名の三名です。病状・年齢・調理経験等に個人差はありますが、それぞれ訓練に立候補し三月下旬より開始しています。



開始から一か月経過し、ある参加者は「日中帯に体を動かしている」とクタクタで夜は七時ごろに寝てしまい、朝すっきりしているよ。」と施設生活とは異なった達成感が体験できているようです。また、調理が苦手な方も食材を活かした献立調整を行い、一週間の生活費一万円を数千円も節約できるような成果も見られています。



生き生きデイサービスのリモート買い物



とお話を頂きました。

市内のドラッグストアとデイサービス（プラムカフェを利用）をリモートで繋ぎ買い物を行いました。相手方の端末から複数の端末を繋ぎ、一つは大きなスクリーンで画面にしたことで参加者十二名が自分で注文することができました。カタログなどでは、種類が少なかったり、思った物と違ったりすることもありました。陳列棚を見ながら行きました。あれもこれもと皆さん積極的に買い物をし、和気あいあいと楽しい時間を過ごせました。参加者の沢山の方から楽しかったとの感想を頂き、また行いたいと現在でも話を伺います。次回はもう少し大きなスーパーなどで行う予定です。過疎地でも高齢者が、地域で暮らしていけるお手伝いをして行ければ幸いです。



天城デイサービスの所在地である旧天城湯ヶ島地区は時代の流れと共に過疎化が進み商店が減少しています。デイサービスの利用者も歩いて行ける距離に買い物できる場所がありません。何か私達に出来ることはないかと思ひ、令和二年十一月より買い物代行サービス（御用聞き）を試験的に開始しました。試験にて、あまり多くの方を対象としませんでしたが利用された方からは大変助かるとお話を伺いました。買い物支援を進めて行く中で伊豆市社会福祉協議会より、タブレット端末を使用し商店などとデイサービスを繋いで買い物できたら、画面越しでも実際に目で見て買い物ができるのではないかと。是非天城デイサービスと一緒にやりたい

移動販売車がやってきた

この春、あおばの家にココ壺番屋の移動販売車がやってきました。昨年度は遠足も親子食事も中止となつてしまひ、利用者の楽しみになっていた活動のほとんどが実施することができませんでした。そこで施設に居ても楽しめるイベントを探し、近くの施設に出張販売していたココ壺番屋さんに相談したところ快く引き受けていただくことができました。



カレーのメニューはカツカレー、シーフードカレー、野菜カレーの3種類。ココイチさんのご厚意でサラダにカップゼリーも付けていただきました。また、今回は初めての試みとして利用者各自で会計をしました。自分で店長さんにお

金を手渡し「〇〇カレー下さい」と注文し、店長さんも笑顔で答えてくれます。中には順番を待ちきれず販売車をずっと見つめている利用者もいらっしゃいました。全員が会計を済ませ皆で美味しいカレーをお腹いっぱい食べる事ができました。普段お店へ出かける利用者も移動販売車は珍しかったようで、目を輝かせていました。

今年度もコロナの収束にめどが立っていない状況です。しかし今回の移動販売車も踏まえ、地元の食堂によるデリバリーの活用、職員による調理活動等、施設に居ながらにして、普段とは違う活動を楽しめる事ができています。利用者からも「次は〇〇を食べたいな。」と楽しみにしている為、職員もどんなサプライズを用意できるかわくわくしながら取り組んでいきたいと思ひます。



農業って楽しいじゃん！

澄みきった空気、心安らぐ静寂、伊豆市山麓の壮大な自然の中に身を置き、原木しいたけの収穫作業。生産者からの依頼を受け、新たな試みとなりました。

利用者の障害特性である「きちんとやりとげたい」「動きにテンポがある」などと、収穫作業がみごとにマッチング、これならできると期待が膨らみました。

利用者と職員がペアとなり、天候と闘いながら収穫を急ぐ作業。緊張感もありましたが、大きな達成感とおいしい空気が、皆を笑顔にしてくれました。今回の報酬は取れたてのしいたけ、品種は「ゆう次郎」です。段ボール四箱もいただき、天日干しにしたり、刻んだりして商品化への提案も考えました。

農福連携事業とは、「農業」と「福祉」が手を携えることで、様々なメリットを生み出していくことが期待されている県の推進事業です。利用者の能力を活かすための作業分析、創意工夫をして可能性を伸ばし、「障がい者就労」に結びつけていけることを

再確認できました。

伊豆市の自然が育む特産物の価値を知り、それを支える「力」になることを目標に、確実な一歩を踏み出すことができたように思います。

障がいがあっても「彼らの能力はすごいんだ」という信頼関係も構築し、生産者の方々にも喜んでいただけるWIN WINの関係が、「社会参画」という形になっていけるようながんばっていきたいと思います。



日中一時支援事業開設



就労継続支援B型事業所もくせい苑では、令和三年三月十日より、日中一時支援事業を開設致しました。

この事業は、利用者の帰宅時間によつては家族が在宅していない家庭もあります。また、特別支援学校卒業後にB型事業所を希望しても終了時間が早いため保護者の勤務時間に支障をきたし、通所を断念をするケースも見受けられ、時間延長をして欲しいとの要望がありました。

この様な状況を踏まえ、28人の利用者及び保護者を対象に日中一時支援事業についてアンケート調査を実施しました。その結果、日中一時支援事業を知らなかった方が七割強、また、恒久的及び臨時的でも利用したい希望者は二割強

となっていました。更に、伊豆の国市内には日中一時支援事業を実施している事業所が無く、受け入れ態勢が出来ていない事も分かりました。

開設後、恒久的に三名の利用者が、日中一時支援事業を利用していきます。三名共に今春特別支援学校を卒業したフレッシユな方々で、パソコンで様々な索引や職員とゲームを行っています。また、電子ピアノで音楽を聴くなど有意義な時間を過ごす事ができ、保護者からも喜ばれています。

今後、帰りの送りの問題や休日の開設についての課題解決に向けて取り組んでいきます。



もくせい苑

就労継続支援B型事業所 プラム

修善寺地区ニュータウン「友笑会」買い物ツアー

住民主体で活動をしている「友笑会」の買い物ツアーに繋がるまでをご紹介します。ニュータウン地区は、自然に囲まれ富士山を眺めることができ、都会からの移住者が多い地区ですが、坂道が多く車がないと不便な別荘地です。数年前から移動に関する問題が浮き彫りとなりました。

- ①免許返納 ②路線バスの減少
③高齢化

二年前は、自治体と友笑会で移動サービスが必要と感じ運動ボラを募りましたが、反応が「ゼロ」という結果でした。前回の反省も踏まえ、今回は協議体の「近助会」とコラボし課題の抽出を行いました。実証実験に向け①車両貸し出しは、ケアセンターと社協の車両を二台②運転手は、包括と社協の二名で実証実験を一ヶ月に一回計三回実施。現実に運行することで問題点や、もつとこうしたら良くなるのでは？と様々な意見が飛び交うようになりました。住民の士気も高まり、本当に必要なことを再確認すると共に、この実証実験を行ったことが友笑会のメンバーの強みと

なり、現実化に向けてどうしたらいいか？の話し合いがより一層自身の濃い話し合いへと変化してきました。ケアセンターの福祉委員には「安全運転講習会」を依頼し、実際の貸し出し車両を使用し学びを深めました。車昇降の注意点や急ブレーキを体感し講習を行うことで、ボランティアさんの不安要素の軽減に繋がりました。いよいよ本格運行がスタートします。感染対策にも気を付け出来ることを、自分たちで行う住民主体の買い物ツアーの始動です。これからも、地域住民の手助けが出来る地域に密着した包括支援センターを目指し皆笑顔で邁進していきます。



その人らしい看取りにむけて

ぬくもりの里では、入居されている八割以上の方に看取りケアを提供させていただいています。入居時、家族はいずれそう遠くない未来に入居されるその方を看取る時が来る事について、全く想像をされていない事が多くあります。

そこで、施設介護計画について話し合う場面で家族あるいは本人に直接考えを伺う時間を設け、普段の暮らしの充実と共に最期の時間にどのようなケアを望まれているのか、少しでも本人、家族、職員が想いを共有でき、その準備をしておく事が大切だと考えています。その方の最期の時間が近づいてきた時に様々な選択肢を家族は迫られますが、その時には今までの本人や家族から伺ってきた要望をもとにまた、私たち職員の経験から具体例を挙げさせてもらい、想いに寄り添った支援をさせていただいています。

看取り期の時間はその方の生きざまに多く触れる事が出来る時間でもあり、家族との話の中で入居されてからの関わりの中では知り得る事のなかった人となりを知る事や貴重な時間を家族と一緒に過ごす事、共感する事で寄り添いの

距離がぐっと近づく、職員にとっても大切な時間となっています。

忘れられない看取り支援体験があります。その方は家族の付き添いなく、老健から移ってこられました。若い頃の行動が仇となり家族とは絶縁状態。年月が進み、その方が衰弱し、いよいよとなった時、誰からともなく「娘さんに連絡しようよ」と。何とか面会に繋げ、「お母さん」と声をかけられた三分後、大きく息をされ、そして止まりました。最期の一息でした。「こんなはずじゃない、この為に来たんじゃない」と娘さんは言われていました。退居時に娘さんから「心が洗われた想いです」と話がありました。最期の時をたつた数分しか共有できませんでしたが、親子の距離がぐっと縮まった時間となりその時に立ち会えた事は強く印象に残っています。

最期までその人らしい生活を送っていたために、お元気な頃から利用者、家族とのコミュニケーションを大切にし、その方を想う気持ちを持って接することを心掛け、日々の業務にあたることでより良い看取り支援に繋がっていくと思います。

令和2年度 苦情・要望等受付状況報告

【苦情・要望の一部抜粋】

- ・入居者家族より、コロナで忙しいのは分かるが40日間も状態報告の連絡がない。
→ 施設側で謝罪し解決する
- ・家族面会時のお菓子の差し入れをめぐり入居者と職員がトラブルとなる。家族よりコロナにより外出もできないので、少しでも家庭的な楽しみが欲しい。
→ 家族と施設側で検討する
- ・職員の言葉遣い、態度が悪いので、担当を変えて欲しい。
→ 謝罪し担当者を変更する
- ・送迎の忘れがあったので注意して欲しい。
→ 朝の送迎時に当日・利用者の確認をすることの徹底を図る

令和2年度の各施設における苦情・要望等の受付・解決状況は、法人ホームページで公表しています。
法人HP <http://www.shunpuukai.com/>

施設名	苦情・要望	解決状況
あしたかホーム (特養入居)	2件	2件
プレーグあしたか (小規模特養)	2件	2件
沼津虹の家	1件	1件
伊豆中央ケアセンター (特養入居)	1件	1件
(短期入所)	2件	2件
(通所介護)	1件	1件
(訪問介護)	1件	1件
あまぎ認定こども園	1件	1件
ぬくもりの里 (特養入居)	1件	1件
プレーグおおひと (特養・事務)	各1件	2件
(居宅介護)	1件	1件
(通所介護)	1件	1件
(訪問介護)	2件	2件
サポートセンター絆	1件	1件
大仁地域包括支援センター	1件	1件
みはるの丘浮島 (特養入居)	2件	2件
(短期入所)	3件	3件
(訪問介護)	2件	2件
ケアハウスはるかぜ	2件	2件
沼津市立高尾園	4件	4件

令和三年四月七日、静岡県福祉指導課、静岡県病院協会関係者の計四名の職員を迎え、感染対策の為の訪問指導を受けました。法人内の他施設と合わせ、十数名程の職員の参加がありました。

指導内容としては、県立静岡がんセンターの感染管理認定看護師の工藤氏から、感染防止対策の講義、ガウンテクニクの研修、施設内の巡回指導となります。

講義とガウンテクニクは、これまで、施設内で検討、共有してきたBCPやマニュアルが再確認できる内容でした。

あしたかホームでは、一月六日から二十二日まで、実際にコロナウイルスの感染対策を実施しています。施設内の巡回指導では、その時のゾーニングの考え方を中心に、実際に感染対策を終了するまでの取り組みを報告し、アドバイスをして頂きました。コロナウイルス対策は、正解が解らずに、試行錯誤を繰り返しながら、見えないゴールに立ち向かうという印象があります。その中で、特にゾー

ーニングやガウンテクニクについては、施設のスベースも鑑み、職員に対しても負担がなく、且つ効果的な方法の指導をいただきました。

工藤氏からは、感染対策で一番重要なのは、マスクの装着と接触感染を最大限に防ぐ、手洗い、手指消毒、デイスボグロブを適切に交換することと受けました。とてもシンプルですが、重要な事と再認識できました。

ワクチン接種が具体的にできており、以前の様な日常に戻れる可能性が垣間見えてきています。今後も感染対策を怠ることなく取り組んでいきます。



あしたかホーム

感染防止対策の為の施設訪問指導を受けました



ぬくもりの里／リサイクル資源回収

資源回収は事業所収益と工賃に反映

近年、地球温暖化や新型コロナウイルス感染拡大等々、私たちの生活環境は著しく変わってきました。このことにより就労継続支援B型事業所においても企業からの下請事業や販売機会の減少、又は外出支援の自粛により、施設の収益は大きな影響を受けています。

このような状況の中でも、伊豆市にあるプラム・伊豆の国市のもくせい苑では、様々な団体や個人からリサイクル資源となり得る新聞・段ボール・牛乳パック・アルミ缶等々を回収しています。また、もくせい苑では、ペットボトルのキャップも集めています。これらの資源回収品は、私たちB型事業所の貴重な収益となり、利用者の工賃に反映されます。

職員をはじめ、地域の方々や商店・各種団体の協力をいただき資源回収を進めていきますので皆様のご協力をお願い致します。



シトラスリボンが贈呈されました

伊豆総合高校より伊豆中央ケアセンターへ



伊豆総合高校(旧)3年生の生徒3名が、シトラスリボンを100個プレゼントしてくれました。彼女たちは伊豆市役所にも寄贈してくれています。

授業でシトラスリボンの事を知り、自分たちも何かしたいとボランティアで制作した、手作りのリボンです。

シトラスリボンとは、「コロナウイルスにかかった方々の、誹謗中傷はやめて明るい世の中にしましょう。」というメッセージが込められています。皆さんもぜひ賛同して下さい。

伊豆総合高校の皆さんありがとうございました。

愛鷹中学校よりあしたかホームへ



愛鷹中学校を代表して生徒会役員2名よりシトラスリボン100個をプレゼントして頂きました。シトラスリボンの3つの輪は「地球」「家庭」「職場」を表現しています。

愛鷹中学校だけでなく愛鷹地区全体に広げていきたいとの思いで、コロナ禍でシトラスリボンを通じて助け合いの輪を広げる目的で今回あしたかホームに寄贈して頂きました。

利用者からは「この活動を知ったことによりコロナ陽性者への差別や偏見を持たないようにしていきたい」とのあいさつがありました。

愛鷹中学校の皆様、ありがとうございました。



- 春風会法人本部・伊豆市東権路1742-1
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX(0558)76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380

- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL(0558)87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723
- ケアハウスはるがせ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレীগあしたか
小規模多機能型特別養護老人ホーム
〒410-0302 沼津市東権路1639-1
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレীগおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)76-7299
- 障害サービス ケアホーム などの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL(0558)77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL(0558)77-1221

- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201
- プラムカフェ
TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334